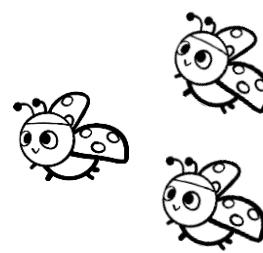




図書館だより

5月号



大鳥中学校

風薫る5月、1年のうちでもっとも過ごしやすい季節になりました。

この5月に関連した言葉に「五月雨」「五月晴れ」がありますが、正しい読み方を知っている人はどのくらいいますか？ 「五月雨（さみだれ）」は旧暦の5月（現在の6月）に降る雨、つまり梅雨のことです。そして、「五月晴れ（さつきばれ）」はもともと、その「梅雨の晴れ間」の意味ですが、現在では「5月の晴れわたった空」という使い方も一般的になってきました。

晴れわたった空のもと、気持ちも体も外に向かっていきたいものですね

みなさんは、自分を大切にしていますか？

自分の気持ちや意見をお友だちやおうちの方や先生にきちんと伝えていますか？自分のまわりの人を大切にしていますか？お年寄り、体の不自由な人、外国人の人、小さい子どもや下級生には、どうですか？

生涯を人を救うために捧げ尽くしたマザー・テレサさんは、“幸せの反対は孤独です”とおっしゃいました。

人は一人では生きていけません。自分を愛してくれる人、自分を必要してくれる人がいないと生きていけないのが私たち人間です。でも、みんな一人ひとり違いがありますから、ときどき対立やけんかもあります。でも、対立やけんかはあっても、お互いに理解したい、仲よくなりたいと努力することが大切です。それぞれ違いを持っているからこそ、ちょっとずつ我慢したり、ゆずりあったり、助け合ったりすることが大切なのです。まずは、今となりにいる人と仲良くすることです。そして、知らないだれか、世界中のだれかのことまで大切にできる人になりたいですね。

相手の気持ちを思いやる優しい心を育むには、小説を読むのも良いでしょう。また、分類番号1の心のあり方について書かれた本もおススメです。



Recommended Book

913. シ「きみの友だち」重松清著 新潮社

中学校の国語教科書でもおすすめ本として紹介される定番ともいえる重松さんの代表作。物語のたびに主人公が変わる連作短編なので、自分にている誰かに出会えるかもしれません。この物語で、本当の友だちはなんなのか？に気付くことができますが、その反対にある不安も感じる方も…？それは、自分には本当の友達なんて一生できないかも知れないという不安です。恵美と由香のような友人関係なんて、普通の付き合いでは、できるものではありません。それを心のどこかで感じてしまう怖い物語でもあります。友達を探す前に、先ずは自分一人でしっかりと生きて行く。そんなメッセージも「きみの友だち」には含まれています。

母の日

世界各国で行われている母の日は、日付もさまざまです。日本には明治末期ごろに伝わり、1931年に当時の皇后の誕生日である3月6日を「母の日」とすることを日本連合婦人会が提唱しましたが、あまり普及しませんでした。その後、1937年に森永製菓が中心となって、母の日キャンペーンを開催し、徐々に全国的に盛り上がりていきます。そして1949年ごろには、アメリカと同じように5月第2日曜日が母の日として定着していきました。



日本やアメリカはカーネーションを贈るのが一般的ですが、世界各国には違う花を贈る文化もあります。例えばオーストラリアでは、「mum」という愛称を持つ白く小さな菊の花。この愛称が「母」と同じ意味であることから、母の日のプレゼントの定番になっています。ほかにも、イタリアではアザレアの鉢植えを、フィンランドではミニバラやヴォッコというニ輪草を、タイではジャスミンなどを贈るそうです。

